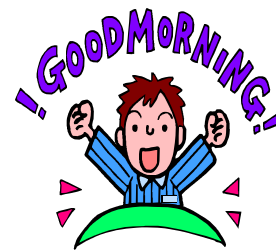


**Q18 再登校のきざしがみえた時
どんなことに配慮して支援すればよいのですか。**

再登校のきざしとは、不登校の児童生徒が家庭での生活の中で、次のようなことをするようになったときだと言われています。

- 1 朝食を家族と一緒にとるなど、生活のリズムが整ってきた。
- 2 電話に出たり、来訪者に挨拶ができるようになったりした。
- 3 表情が柔らかくなり、兄弟喧嘩が穏やかになったり保護者と話し合ったりするようになった。
- 4 外出できなかった子どもが、外出できるようになった。
- 5 今まで見なかった連絡物に目を通すようになり、学校の話題をいやがらなくなった。
- 6 教科書を机の上に出して置くようになり、学生服や鞆を手にしたり見せたりするようになった。
- 7 担任と会うことができ、会話が長くできるようになった。
- 8 「たいくつだ」「つまらない」「暇だ」などと言うことが多くなった。



このような状態になってくると、保護者や教職員は、すぐにでも登校ができるように思ってしまう。しかし、上記のような行動がみられるようになったからといって、すぐに学校復帰が可能なわけではありません。

そこで、配慮したいことは

- 1 「学校復帰のきざし」を見逃さないように、学校と家庭との連絡をとる。
- 2 保護者に「焦らないこと」と、「家庭で配慮すべきこと」を伝える。
 - ・保護者の焦る気持ちに共感する。
 - ・保護者の焦りが本人の不安を高めることを伝える。
 - ・家庭での生活を充実させることが本人に自信をつけさせ再登校につながると伝え、学校のことや再登校を促すような言動やかかわりを控えるように注意する。
- 3 子どもの今の気持ちを聞き出す努力をする。
 - ・どんな心配があるのか、些細なことでも聞き出すようにする。
- 4 今までの生活ではできなかったことをさせ、自信をもたせるようにすることを、保護者と一緒に考え提案する。
 - ・家事手伝いをさせる。・家事の一部を任せる。・興味のある教科の学習をさせる。
- 5 学校や教職員にしてもらいたいことを聞き出したり、こんなことはできるのではないかと提案したりして、本人が自己選択と自己決定できる場をつくる。
 - ・学校の行事への参加（社会見学、修学旅行、運動会・体育祭、文化祭 等）
- 6 教職員がリードすることを避け、共に考えていく姿勢を大切にする。

教職員のリードで進めると頑張りすぎて挫折してしまい、再び休み始めることが少なくありません。挫折が繰り返されると再登校が難しくなります。教員から提案することはあっても、無理強いはい止めましょう。子どもの気持ちや考えに教職員がついていくような対応が求められます。また、教職員からの提案は複数とし、自己選択により決定をさせることが大切です。その際、提案とは違うことを選択したり、提案を行わないことを選択したりすることも認めます。

なお、最近はメールを使って本人との人間関係を拡大し、生活状況や心の変化をつかむ努力をしている教員や相談員も増えています。しかし、メールはあくまでバーチャル（仮想現実）な世界です。メールを使って信頼感が深まったら、実際に会って話したり活動したりする関係をつくる中で、人間関係の拡大を図っていくことが大切です。